

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100303		
法人名	有限会社 博永興産		
事業所名	グループホーム オアシスK		
所在地	香川県高松市飯田町705番地		
自己評価作成日	令和1年8月9日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	令和元年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民との関わりを大切にし、定期的に集会所にて地域の方を対象とした体操教室を行ったり、お茶やお菓子をご馳走になったりと、ご利用者と地域の方との交流の場になっている。又、施設行事の際は地域の方々をお招きしたり、ご協力をお願いしたりと、共に行事を楽しんで頂きながら介護や認知症について理解を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は静かで広い同法人内の複合施設の2階に所在し、2ユニット間は広い廊下で繋がっており、自由に行き来できる。事業所は積極的に地域の行事に参加するとともに、ボランティアの訪問を受けたり事業所の行事に地域の方が参加する等、地域との交流を大切にしている。また、職員は理念や施設目標に沿って具体的に実践に繋がっていることから、利用者からは落ち着いた雰囲気を感じられる。管理者を中心に、職員は自由に意見や要望が言える職場環境であり、提案したことはまずは受け入れられ、実践からの新たな問題や課題を次のステップに活かしていこうとする姿勢がうかがえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、施設目標をたて申し送りや会議などで職員に周知を行っている。廊下に理念を掲示し常に意識づけケアプラン等に反映、実践に繋げている。	「いつも あなたに 寄り添って」の理念を基に施設目標を職員間で話し合って作成し、事務所内に掲示するとともに申し送り時や会議で見直しや確認を行い、職員は理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通じ施設の行事(夏祭り、運動会、クリスマス会等)に参加やご協力を呼び掛けている。又、地域の清掃等への参加や地域行事への招待を受ける等、交流が来ている。	運営推進会議や近隣の集会所から地域の行事等の情報を得ている。自主防災訓練や地域の清掃活動等の行事に参加するとともに、夏祭り等の事業所の行事に地域住民が参加、ボランティアの訪問を受ける等相互に交流を図っている。近所の散歩中には挨拶したり、野菜等を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の方々から相談を受けた際に必要に応じて説明や勉強会を行うなどアドバイスをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて現状報告を行い、出席者の方々より、寄せられた意見やアドバイスを頂き、サービス向上へ反映できるよう取り組んでいる。	地域の関係者や有識者をメンバーとし、2か月に1回開催している。事業所の取り組み内容等の状況報告と意見交換を行い、事業所運営に活かしている。特に、運営推進会議からの地域情報は地域交流の活動の参考となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、情報交換を図りつつ、必要時には相談にも応じて頂き協力関係を築けるよう取り組んでいる。	運営推進会議では、行政的な話やその時々話題に関する情報を得ている。また、グループホーム連絡協議会や研修会に参加し、法改正時には不明な点を相談する等連携を密に図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に一度、身体拘束廃止委員会を開催し職員へ周知を行い、日常的なケアの中でも身体拘束やスピーチロックとならないよう定期的な勉強会を開催しながら意識の向上を図っている。又、入居者の行動や心理を理解し身体拘束を行わなくて済むよう努めている。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回、職員に資料を配布し返答をもらう等の勉強会を6か月に1回開催、また、スピーチロックと思われる言葉を専用の用紙に記載する等、職員は共通認識を持って、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。エレベーターは電子ロックであるが、利用者の希望に沿った支援に努めている。	

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて虐待についても取り上げ職員に周知を行いながら意識作りを行っている。又、スピーチロックと思われる言葉を耳にした際には専用の用紙に記入し身体拘束委員会により資料として報告している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や資料等で得られた内容を共有し、必要時にいつでも活用し支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安点や疑問点については、その都度十分に説明を行い、改定がある場合は改定内容について、説明を行うと共に理解、納得頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会、電話連絡時にご家族の意見や要望を確認している。会議の場や申し送りの際に話し合い業務内容や介護計画の内容に反映させている。	玄関に意見箱の設置、家族との面会や便り送付、連絡等の際に意見や要望を聞く機会があり、出された意見は職員間で話し合っ支援に活かしている。内容により統括部長、社長へと相談する体制が整っている。提案された結果は家族に返している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング、申し送りノート活用に加え、日常の業務内にて出た意見に対しても耳を傾け、柔軟な対応が出来るよう努めている。	グループホーム会議やユニット会議、日常業務の中で職員の意見を聞く機会を設けており、職員は意見を言いやすい環境である。提案した意見はまずは受け入れられ、職員間で検討を行いながら、実践につながるよう努めてる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の考えや意見に耳を傾け、必要時には資格取得支援を通して、向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、研修参加を促し、得られた技術や知識について、業務で活かせるようアドバイスをを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修に参加し同業者と交流を持つ事でサービスの質の向上に役立てるよう努めている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談を行った際にご本人の言動や仕草より汲み取る努力を行っている。又、ご家族より生活歴や趣向、要望をお聞きしご本人の安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な点や疑問点を聞き、十分に説明しご理解と納得をして頂き心のケアに努めている。又、起こりえるリスクについて事前に説明しご理解を頂いた上でサービス説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族、他事業所等からの情報を元にニーズ確保に努め、サービス内容に反映できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、共に食事や洗濯、掃除等を行う事で暮らしを共にする者同士として関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時にご本人の様子を細かくお伝えし、ご家族から気軽に要望を話して頂ける雰囲気作りに努めている。又、家族会を開く事でより良い協力関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店を呼んだり、他事業所から顔見知りの面会機会を作ることで関係性が途切れないように努めている。	馴染みの方の面会や理髪店の来所、同法人内の事業所の利用者や近隣の集会所の参加者との面会の機会を設けたり、家族の協力により、自宅や墓参り等の馴染みの人や場所の関係性の維持に努めている。また、電話や年賀状による支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係や生活リズムを把握し座席など考慮し交流が図れるよう努めている。又、ユニット間の移動を自由にして頂き関係確保に努めている。		

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除となっても相談等が行なってもらえるようお声かけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを聞き取り、行きたい所や食べたいもの、暮らし方等の希望に添えるよう努めている。意思確認の困難なご利用者からは仕草や言動、会話から意向を把握するよう努めている。	日頃の関わりや家族、生活歴等から思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、仕草や表情等からくみ取り、職員間で情報を共有し、利用者の意向に沿った支援の検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族や関係者からの情報収集により、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス等を通じて日々の様子を共有し把握するよう努めている。又、定期的に看護師や理学療法士など専門職業との連携により健康状態やADLの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者毎に担当者を設け主に担当者から日々の暮らしの様子を確認しながらモニタリングを行っている。又、ご本人やご家族の意向を確認、取り入れながらカンファレンスで話し合い、介護計画の作成に努めている。	居室担当者が主だったケアプランを作成している。家族には意見や説明を行うとともに必要に応じて、看護師や理学療法士等の関係者の意見を反映しながら、カンファレンスで話し合っ、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子、健康状態、排泄状況、食事・水分の摂取状況を記録し内容を共有。必要に応じて細かい様子を記録し対応や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに対応出来る様、話し合いを行ったり、ご家族へ協力をお願いするなど、柔軟な支援が行えるよう努めている。		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域関係者やボランティア等の協力を得たり、地域集会所や神社などの行事に参加させて頂き豊かな暮らしを送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関等の受診の際は、情報提供を行い、必要に応じて送迎や付き添い等の対応を行っている。又、協力医療機関による定期的な往診も可能であり、協力歯科による往診も行っている。	原則、本人や家族が希望する医療機関の受診は家族の対応であるが、状況により受診支援を行っている。受診結果等は口頭や書類で説明を行い、相互に情報を共有している。週1回の内科医の往診、必要時には歯科医師の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や記録に基づき、申し送り等により情報交換を行っている。又、協力医療機関に日々報告を行い、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、ご本人やご家族、病院関係者と話し合いを通じ、情報交換を行い、関係性を築けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応指針」により終末期における対応について説明を行いご理解を得ている。又、状態変化に応じてその都度、ご家族と話し合いを行いその内容を職員間で共有している。	入居時に「重度化した場合における対応指針」の説明を行っているが、利用者や家族の状態変化により、その都度家族と話し合い情報の共有を図っている。看取りの実績はあり、他の利用者への配慮もされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥や窒息、事故発生時などケース別にフローチャートを作成し緊急時に備えている。又、AEDの使用方法や窒息時などの対応について研修や講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時と別に避難経路図を各ユニットに掲示している。又、毎年2回、避難訓練をいろいろな場面設定で実施している。運営推進会議では協力の働きかけと地域の災害対策について情報交換をしている。	年に2回避難訓練を実施しており、緊急連絡簿やマニュアル、避難経路、避難場所等も整備されている。台風時には自治会長から河川の水位の情報提供がある。福祉避難所の指定は受けていないが、地区からの要望があり、対応できるように備蓄品等の準備を行っている。今後は予告なしでの避難訓練を実施したいとのことである。	災害対策について検討され、地域から期待された事業所であるが、あらゆる大規模災害を想定した避難訓練と地域との具体的な協力体制の構築を期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や経歴を把握し言葉使いに注意している。職員間で言葉かけに注意し合えるようスピーチロック用紙を活用しご利用者の尊厳が守れるよう心掛けている。	3か月に1回の認知症の研修時に人権に関する研修も導入している。全職員が共通認識した支援ができるように、ニュアンスで伝えるのではなく具現化したり、スピーチロック用紙の活用等の工夫を行っている。声かけやドアを閉める等のプライバシーへの配慮にも努めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物を選択出来たり、更衣時や外出時に好みの服を選べるよう複数の選択肢を用意することで自己決定を促している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間をご利用者の要望により変更したり、希望の場所で食事提供を行う等ご利用者が希望に添えるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みやご家族の意向を確認しながら、状況に応じた服装や身だしなみを提案している。又、必要時には訪問理容や訪問美容の利用調整を行っている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者からの食事に関する意見は給食会議で報告され速やかな改善が行われている。又、カレー作りやおやつ作りなど食事を作る楽しみを希望時に実施している。食事の準備や下膳も職員と一緒に行われている。	同法人内の1階の厨房で調理・配膳しているが、各ユニットで米飯と汁物の準備と食事形態の対応を行っている。給食会議での意見や要望が反映されている。お好み焼きやクレープ、ゼリー等のおやつ作りの機会もある。職員はやさしく声かけしながら食事介助や見守りを行っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態を工夫したり、好みの食べ物を用意する事で栄養や水分確保を促している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科治療や歯科衛生士による口腔ケアを受けられている。又、口腔状況に合わせ口腔ティッシュや口腔ブラシ、舌ブラシなどご利用者にあった道具を提供し義歯や口腔内の清潔保持に努めている。	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、出来る限りトイレでの排泄の支援を行っている。又、羞恥心やプライバシーへの配慮した声かけ誘導を心掛けている。	排泄チェック表を参考に、一人ひとりの排泄パターンをみながら排泄の誘導・自立支援を行っている。プライバシーにも配慮した声かけや介助に努めている。リハビリパンツとパットがパットだけに、小さいパットに改善された利用者もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、適度な運動や水分摂取を働きかけ、自然排便を促せるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や意向などを踏まえリラックス出来る環境を整え、羞恥心や恐怖心を感じさせない様、心掛けている。又、時間や日にちに囚われず希望時に入浴出来る様、努めている。	入浴は原則、週2回であるが、回数や時間帯、同性介助は個人の希望を尊重している。利用者の状態により個浴、座位浴、同法人内のハーバー浴を使用することもある。入浴拒否者には声かけやタイミングの工夫により、入浴後には気持ち良かったとの声が聞かれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを考慮しつつ生活リズムが確保できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルや服薬一覧表に添付し、申し送りやカンファレンスなどで内容を確認し共有している。服薬状況は協力医療機関に報告、相談をしながら経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや清掃、食器洗いなどご利用者毎にあった施設での役割やカラオケや生け花、お茶点など一人一人の生き甲斐を持てる環境作りを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に合わせて選挙投票、買い物、季節行事、地域行事、外食等をご家族の協力も得ながら実施している。遠方への外出が難しい方は、近隣を車椅子などで散歩するなどの方法で支援に努めている。	同法人内の敷地や近くの白鳥がいる池、近隣等の散歩に声をかけ合って希望者で出かけている。以前は個別に外出をしていたが、皆で行く方が良いとの声があり、スーパーマーケットや岩田神社、高松駅、花見等の利用者の希望に沿った場所への外出支援を行っている。選挙の投票に参加したこともある。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>毎週水曜日にはパン屋の訪問販売があり預かっているお小遣いから買い物を行っている。又、買い物外出の際にはご本人により清算を行えるよう支援している。お小遣いについては出納帳を作成しご家族に毎月確認していただく対応に努めている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご利用者の要望に合わせて電話利用や携帯電話の操作の支援を行っている。年賀状など必要に応じて準備、対応しご家族や大切な方とやり取りができるよう支援に努めている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下やホールには季節を感じる花をご利用者に活けて頂いたり、壁飾りを作って頂き季節毎の雰囲気作りを行っている。</p>	<p>共用室の空間は広く、2ユニット間を自由に行き来できる。季節の花が生けられており、壁面には大きな絵画やコスモスの手作り作品が飾られている。室内は整理整頓されており安全面にも配慮されている。テレビを囲んで弧の字型に配置されたソファ、ベランダの長椅子はゆったりと過ごせる雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間内のテーブルや椅子、ソファの位置を考え、ご利用者同士が思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人やご家族の要望を出来る限り反映し使い慣れた家具や生活用品、趣味の小物などを使用して頂き安心感のある場所となるよう環境整備に努めている。</p>	<p>居室には洗面台、ベッド、タンスが準備されている。好みのテレビや冷蔵庫、椅子等の調度品が配置され、写真や自作の書道、小物等が飾られており、その人らしい居心地よい雰囲気が感じられる。また、窓からは周囲の景色が眺められ、季節を感じられる環境である。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや廊下、浴室等に手すりを設置し、一人ひとりに合った補助具を活用、使いやすいように配置などを考慮するなど工夫に努めている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて、施設目標をたて申し送りや会議などで職員に周知を行っている。廊下に理念を掲示し常に意識づけケアプラン等に反映、実践に繋げている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通じ施設の行事(夏祭り、運動会、クリスマス会等)に参加やご協力を呼び掛けている。又、地域の清掃等への参加や地域行事への招待を受ける等、交流が来ている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の方々から相談を受けた際に必要に応じて説明や勉強会を行うなどアドバイスをしている。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて現状報告を行い、出席者の方々より、寄せられた意見やアドバイスを頂き、サービス向上へ反映できるよう取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、情報交換を図りつつ、必要時には相談にも応じて頂き協力関係を築けるよう取り組んでいる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三ヶ月に一度、身体拘束廃止委員会を開催し職員へ周知を行い、日常的なケアの中でも身体拘束やスピーチロックとならないよう定期的な勉強会を開催しながら意識の向上を図っている。又、入居者の行動や心理を理解し身体拘束を行わなくて済むよう努めている。

7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて虐待についても取り上げ職員に周知を行いながら意識作りを行っている。又、スピーチロックと思われる言葉を耳にした際には専用の用紙に記入し身体拘束委員会により資料として報告している。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や資料等で得られた内容を共有し、必要時にいつでも活用し支援できるよう努めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安点や疑問点については、その都度十分に説明を行い、改定がある場合は改定内容について、説明を行うと共に理解、納得頂けるよう努めている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会、電話連絡時にご家族の意見や要望を確認している。会議の場や申し送りの際に話し合い業務内容や介護計画の内容に反映させている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やミーティング、申し送りノート活用に加え、日常の業務内にて出た意見に対しても耳を傾け、柔軟な対応が出来るよう努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の考えや意見に耳を傾け、必要時には資格取得支援を通して、向上心を持って働ける環境整備に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて、研修参加を促し、得られた技術や知識について、業務で活かせるようアドバイスをを行っている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修に参加し同業者と交流を持つ事でサービスの質の向上に役立てるよう努めている。

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談を行った際にご本人の言動や仕草より汲み取る努力を行っている。又、ご家族より生活歴や趣向、要望をお聞きしご本人の安心できる関係づくりに努めている。</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の不安な点や疑問点を聞き、十分に説明しご理解と納得をして頂き心のケアに努めている。又、起こりえるリスクについて事前に説明しご理解を頂いた上でサービス説明を行っている。</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人やご家族、他事業所等からの情報を元にニーズ確保に努め、サービス内容に反映できるよう努めている。</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日々、共に食事や洗濯、掃除等を行う事で暮らしを共にする者同士として関係が築けるよう努めている。</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や電話連絡時にご本人の様子を細かくお伝えし、ご家族から気軽に要望を話して頂ける雰囲気作りに努めている。又、家族会を開く事でより良い協力関係を築けるよう努めている。</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの理髪店を呼んだり、他事業所から顔見知りの面会機会を作ることで関係性が途切れないように努めている。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者同士の関係や生活リズムを把握し座席など考慮し交流が図れるよう努めている。又、ユニット間の移動を自由にして頂き関係確保に努めている。</p>

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除となっても相談等が行なって頂けるようお声かけをしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の思いを聞き取り、行きたい所や食べたいもの、暮らし方等の希望に添えるよう努めている。意思確認の困難なご利用者からは仕草や言動、会話から意向を把握するよう努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族や関係者からの情報収集により、これまでの生活の把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンス等を通じて日々の様子を共有し把握するよう努めている。又、定期的に看護師や理学療法士など専門職業との連携により健康状態やADLの把握に努めている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者毎に担当者を設け主に担当者から日々の暮らしの様子を確認しながらモニタリングを行っている。又、ご本人やご家族の意向を確認、取り入れながらカンファレンスで話し合い、介護計画の作成に努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子、健康状態、排泄状況、食事・水分の摂取状況を記録し内容を共有。必要に応じて細かい様子を記録し対応や介護計画の見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに対応出来る様、話し合いを行ったり、ご家族へ協力をお願いするなど、柔軟な支援が行えるよう努めている。

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域関係者やボランティア等の協力を得たり、地域集会所や神社などの行事に参加させて頂き豊かな暮らしを送れるよう努めている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関等の受診の際は、情報提供を行い、必要に応じて送迎や付き添い等の対応を行っている。又、協力医療機関による定期的な往診も可能であり、協力歯科による往診も行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や記録に基づき、申し送り等により情報交換を行っている。又、協力医療機関に日々報告を行い、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、ご本人やご家族、病院関係者と話し合いを通じ、情報交換を行い、関係性を築けるよう努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「重度化した場合における対応指針」により終末期における対応について説明を行いご理解を得ている。又、状態変化に応じてその都度、ご家族と話し合いを行いその内容を職員間で共有している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥や窒息、事故発生時などケース別にフローチャートを作成し緊急時に備えている。又、AEDの使用方法や窒息時などの対応について研修や講習に参加している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時、水害時と別に避難経路図を各ユニットに掲示している。又、毎年2回、避難訓練をいろいろな場面設定で実施している。運営推進会議では協力の働きかけと地域の災害対策について情報交換をしている。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人ひとりの性格や経歴を把握し言葉使いに注意している。職員間で言葉かけに注意し合えるようスピーチロック用紙を活用しご利用者の尊厳が守れるよう心掛けている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>飲み物を選択出来たり、更衣時や外出時に好みの服を選べるよう複数の選択肢を用意することで自己決定を促している。</p>
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間や入浴時間をご利用者の要望により変更したり、希望の場所で食事提供を行う等ご利用者が希望に添えるよう努めている。</p>
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご本人の好みやご家族の意向を確認しながら、状況に応じた服装や身だしなみを提案している。又、必要時には訪問理容や訪問美容の利用調整を行っている。</p>
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ご利用者からの食事に関する意見は給食会議で報告され速やかな改善が行われている。又、カレー作りやおやつ作りなど食事を作る楽しみを希望時に実施している。食事の準備や下膳も職員と一緒にされている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事形態を工夫したり、好みの食べ物を用意する事で栄養や水分確保を促している。</p>
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>定期的に訪問歯科治療や歯科衛生士による口腔ケアを受けられている。又、口腔状況に合わせ口腔ティッシュや口腔ブラシ、舌ブラシなどご利用者にあつた道具を提供し義歯や口腔内の清潔保持に努めている。</p>

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、出来る限りトイレでの排泄の支援を行っている。又、羞恥心やプライバシーへの配慮した声かけ誘導を心掛けている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、適度な運動や水分摂取を働きかけ、自然排便を促せるよう取り組んでいる。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の体調や意向などを踏まえリラックス出来る環境を整え、羞恥心や恐怖心を感じさせない様、心掛けている。又、時間や日にちに囚われず希望時に入浴出来る様、努めている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを考慮しつつ生活リズムが確保できるよう努めている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルや服薬一覧表に添付し、申し送りやカンファレンスなどで内容を確認し共有している。服薬状況は協力医療機関に報告、相談をしながら経過観察に努めている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや清掃、食器洗いなどご利用者毎にあった施設での役割やカラオケや生け花、お茶点などで一人一人の生き甲斐を持てる環境作りを心掛けている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に合わせて選挙投票、買い物、季節行事、地域行事、外食等をご家族の協力も得ながら実施している。遠方への外出が難しい方は、近隣を車椅子などで散歩するなどの方法で支援に努めている。

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>毎週水曜日にはパン屋の訪問販売があり預かっているお小遣いから買い物を行っている。又、買い物外出の際にはご本人により清算を行えるよう支援している。お小遣いについては出納帳を作成しご家族に毎月確認していただく対応に努めている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご利用者の要望に合わせて電話利用や携帯電話の操作の支援を行っている。年賀状など必要に応じて準備、対応しご家族や大切な方とやり取りができるよう支援に努めている。</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下やホールには季節を感じる花をご利用者に活けて頂いたり、壁飾りを作って頂き季節毎の雰囲気作りを行っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間内のテーブルや椅子、ソファの位置を考え、ご利用者同士が思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人やご家族の要望を出来る限り反映し使い慣れた家具や生活用品、趣味の小物などを使用して頂き安心感のある場所となるよう環境整備に努めている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや廊下、浴室等に手すりを設置し、一人ひとりに合った補助具を活用、使いやすいように配置などを考慮するなど工夫に努めている。</p>